

授業科目 相談援助論 II

【担当教員名】 鈴木 昭		対象学年	2	対象学科	社会
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	○	◎	
【概要・一般目標：G10】 社会福祉士を含むソーシャルワーカーの役割を学び、ソーシャルワークの意義と機能について理解する。 相談援助を中心としたソーシャルワーク実践の概念や理念、範囲などについて理解する。 社会福祉士として実践に必要な基本的な視点、考え方など相談援助職の基盤となる知識、技能、態度を習得する。					
【行動目標：SBO】 1 社会福祉士、精神保健福祉士などソーシャルワーカーの役割と専門性、その意義について概説できる。 2 相談援助の概念や範囲、理念を学び、ソーシャルワークの基本視点、基本姿勢について概説できる。 3 相談援助およびソーシャルワークの基本概念を実践過程に即して概説できる。 4 相談援助における権利擁護の意義について概説できる。 5 多職種連携とジェネラリスト アプローチについて概説できる。					
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	ソーシャルワーカーの仕事		1	第7章専門職倫理の概念	
2	ソーシャルワーカーの倫理綱領		1	第7章倫理綱領の意義と内容	
3	ソーシャルワーカーの悩み		3	第7章ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ	
4	ソーシャルワーク実践の概要		3	第8章第1節	
5	ソーシャルワーク実践の基本的視座		3	第8章第2節	
6	ソーシャルワーク実践と地域		3	第8章第3節	
7	ソーシャルワーク実践の視座		3	第9章第1節	
8	ソーシャルワーク実践の基礎理論		2	第9章第2節	
9	相談援助の専門職		2	第10章 相談援助専門職の概念	
10	ソーシャルワークの実践分野と領域		2	第10章 相談援助専門職の範囲	
11	ソーシャルワークの実践機能1		3	第11章 概要	
12	ソーシャルワークの実践機能2		3	第11章 各種機能	
13	ソーシャルワークの実践－権利擁護の意義		4	実践事例への理解	
14	多職種連携の実際		5	総括	
15	まとめ ジェネラリスト アプローチ		5	重要事項の振り返り	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		6相談援助の基盤と専門職 第2版	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2,600円＋税・最新版
参考書		ソーシャルワーク実践の基礎理論 改訂版	北島英治 福田あけみ 他編	有斐閣	2010・2,000円＋税
その他の資料		適宜配布する			
【評価方法】 レポート、定期試験、出席状況により評価する。			【履修上の留意点】 日ごろ社会の出来事に関心をもつとともに厚生労働省HPなどにより福祉の動向をリアルタイムに把握するようにこころがける。		